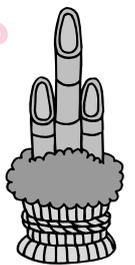




神崎町長 輝 一
石 橋

安心・信頼のある

町政運営を目指して



新年明けましておめでとうございます。町民の皆さまには輝かしい新春をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆さま方には、日頃から町政全般にわたり深いご理解とご協力を賜り、心から感謝とお礼を申し上げます。

昨年来からの想像を絶する景気後退は、デフレ現象を発生させつつ地方経済を一層圧迫して危機的状况に追い込み、先行きはまったく不透明な情勢です。

地方分権こそ、これからの行政運営のあり方として推進された平成大合併も、最近では単純に財政が苦しいから合併しなければという方向に目線が走り、現に合併を進めているところもあると聞いております。

合併は、単に財政問題だ

けではないはず。住民福祉の向上を多角的、総合的な視点で考え判断すべきだと思います。

たとえ多少苦しくとも目の町に絞られず、将来の町のあり様を見据えて、目標を立てそれに向けた周到な準備と、合併するに求められるであろう条件整備を図り、胸を張ってテーブルにつける魅力的で説得力がある環境づくりを望むことが肝要であろうと思います。

そのためには、「人づくり」を基本とした「まちづくり」が必要であると考えています。

政権交代後、初となる2010年度国家予算編成が進められています。事業仕分けとか、無駄をなくすといった言葉を頻繁に耳にしますが、国はもつと早くに気付き行動すべきであった

と思います。

神崎町は血税を1円たりとも無駄にしないよう、平成17年度から5年間にわたる行財政改革プランを策定し、費用の徹底した見直しと経費の縮減に取り組みしました。

結果、町民皆さまの深いご理解と、議会、役場職員の大変な努力によって、5年間の行財政改革の経費削減目標額も、1年残しの4年間で達成し、起債残高の減少を図りつつ、財政調整基金の積み上げも可能となり財政力も向上してまいりました。とは言え今日の経済情勢に鑑みますと、なお厳しい行財政運営が強いられることは必至であります。

「まちづくり」の原則は「自分たちの町は自分たちが作る」ということです。そのためには、町民一人ひとりが自分たちの町を自

分たちで守っていこうという郷土愛の意識が生まれてくるか否かが自治体にとって極めて重要であります。

その意味からも、町民挙げての「なんじゃもんじゃいきいきフェスティバル」、商工会青年部による「ミルキーウェイフェスタ」、利根川の景観を生かした「コスモス祭り」と火渡り修行などのイベントは郷土愛を形成すべく機運の醸成に非常に有効であります。

さらには、地元を代表する酒造会社の酒蔵祭りは、昨年2万人を超える集客を成し、神崎町史上最高の賑わいとなりました。

『発酵の里 こつざき』のネーミングを定着させ、町活性化の足がかりにしたと思います。事業関係について申し上げますと、圏央道建設工事が急ピッチで進められてお

り、平成24年度には、(仮称)神崎インターチェンジが設置されます。このことは、神崎町が千葉県と茨城県から以北地域を結ぶ要衝地となり成田国際空港における北の玄関口となるわけです。

このインターチェンジ周辺整備事業の推進は、町の産業振興、雇用拡大に寄与すると共に、千葉県と茨城県南部地域そして成田空港の発展に大きく貢献するものです。その目的達成に向けて、今後も粘り強く関係機関への要望を重ねながら努力してまいります。

また、利根川沿川自治体で立ち上げた「利根川舟運地域づくり協議会」の場を通じ、舟運復活に向けて国に要望した船着場が神崎河岸に設置決定し、近々工事着手となります。大いに利活用されることを期待しているところです。

道路建設では、町道武田古原線道路改良事業、町道並木郡根岸線道路改良事業、県道郡停車場大須賀線交通安全施設整備事業、町道成田神崎線新設事業等早